

2019年度

I Tエンジニア科 講義計画集

— 第3学年 —

氏名

.....
船橋情報ビジネス専門学校

〒273-0005 船橋市本町7-12-16

電話:047-425-1051
.....

2019年度 (平成31年度) 年間計画表

4月	前期					後期				
	1月	2月	3月	4月	5月	11月	12月	1月	2月	3月
1 始業式・ガイダンス 卒業対象生健診	1 天皇の即位の日	1 月12回	1 木	1 金8回 ひらえぼ船橋	1 日	1 金	1 日	1 水	1 土	1 日
2 卒業対象生健診	2 国民の休日	2 火	2 金	2 土	2 月	2 土	2 月	2 木	2 日	2 月
3 水	3 憲法記念日	3 水	3 土	3 日	3 火	3 日	3 火	3 金	3 月	3 火
4 木	4 みどりの日	4 木	4 日	4 月	4 水	4 月	4 水	4 土	4 火	4 水
5 金	5 こどもの日	5 金	5 月	5 火	5 木	5 火	5 木	5 日	5 水	5 木
6 土	6 振替休日	6 土	6 火	6 水	6 金	6 水	6 金	6 月	6 木	6 金
7 日	7 火4回	7 日	7 水	7 木	7 土	7 木	7 土	7 火	7 金	7 土
8 月	8 月曜振替4回 月1回	8 月	8 木	8 金	8 日	8 金	8 日	8 水	8 土	8 日
9 火	9 木4回	9 火	9 金	9 土	9 月	9 土	9 月	9 木	9 日	9 月
10 水	10 金4回	10 水	10 土	10 日	10 火	10 日	10 火	10 金	10 月	10 火
11 木	11 土	11 木	11 日	11 月	11 水	11 月	11 水	11 土	11 火	11 水
12 金	12 日	12 金	12 月	12 火	12 木	12 火	12 木	12 日	12 水	12 木
13 土	13 月	13 土	13 火	13 水	13 金	13 水	13 金	13 月	13 木	13 金
14 日	14 火	14 日	14 水	14 木	14 土	14 木	14 土	14 火	14 金	14 土
15 月	15 水	15 月	15 木	15 金	15 日	15 金	15 日	15 水	15 土	15 日
16 火	16 木	16 火	16 金	16 土	16 月	16 土	16 月	16 木	16 日	16 月
17 水	17 金	17 水	17 土	17 日	17 火	17 日	17 火	17 金	17 月	17 火
18 木	18 土	18 木	18 日	18 月	18 水	18 月	18 水	18 土	18 火	18 水
19 金	19 日	19 金	19 月	19 火	19 木	19 火	19 木	19 日	19 水	19 木
20 土	20 月	20 土	20 火	20 水	20 金	20 水	20 金	20 月	20 木	20 金
21 日	21 火	21 日	21 水	21 木	21 土	21 木	21 土	21 火	21 金	21 土
22 月	22 水	22 月	22 木	22 金	22 日	22 金	22 日	22 水	22 土	22 日
23 火	23 木	23 火	23 金	23 土	23 月	23 土	23 月	23 木	23 日	23 月
24 水	24 金	24 水	24 土	24 日	24 火	24 日	24 火	24 金	24 月	24 火
25 木	25 土	25 木	25 日	25 月	25 水	25 月	25 水	25 土	25 火	25 水
26 金	26 日	26 金	26 月	26 火	26 木	26 火	26 木	26 日	26 水	26 木
27 土	27 月	27 土	27 火	27 水	27 金	27 水	27 金	27 月	27 木	27 金
28 日	28 火	28 日	28 水	28 木	28 土	28 木	28 土	28 火	28 金	28 土
29 月	29 水	29 月	29 木	29 金	29 日	29 金	29 日	29 水	29 土	29 日
30 火	30 木	30 火	30 金	30 土	30 月	30 土	30 月	30 木	30 日	30 月
31 日	31 金	31 水	31 土	31 日	31 木	31 木	31 火	31 金	31 日	31 火

※年間講義回数
月 30回
火 31回
水 32回
木 32回
金

※9日 月曜振替
15日 月曜振替

※15回 漢字検定

※9日 月曜振替
15日 月曜振替

※前期試験+追試は
予定を入れない

※8日 月曜振替

※前期試験+追試は
予定を入れない

※後期試験+追試は
予定を入れない

※年間講義回数
月 30回
火 31回
水 32回
木 32回
金

ITエンジニア科3学年

本校の教育方針	1
評価について／出欠席ルール	3
FJBネットID登録とメールアドレス	4
実習室・インターネット使用上のルール・マナー	4
個人情報保護に関する基本方針	5
2019年度教育目標と検定スケジュール	6
ARアプリ開発演習	山口 弘展	7
卒業研究	山口 弘展	8
デザインパターン	小原 和明	9
マーケティング概論	田所 博	10
Webアプリ開発演習Ⅰ・Ⅱ	小原 和明	11
プレゼンテーション	田所 博	13
ネットワーク設計	村上 建夫	14
プロジェクトマネジメントⅠ・Ⅱ	須藤 健一郎	15
技術英語Ⅰ・Ⅱ	正木 義男	17
LPIC対策Ⅰ・Ⅱ	石川 雄介	19
新技術動向Ⅰ・Ⅱ	小林 信彦	21
就職講座A応用	遠藤 幹雄	23
ビジネス会計	花田 秀宣	24
ネットワークとセキュリティ応用	村上 建夫	25
情報特論	遠藤 幹雄	26
企業人研究Ⅰ・Ⅱ	葛田 一雄	27
社会人基礎力演習Ⅰ・Ⅱ	山口 弘展	29

本校の教育方針

船橋情報ビジネス専門学校
校長 鳥居高之

教育理念「若者をハッピーに」

これが本校の教育理念です。しかし幸せの形は人によって違いますし、卒業式で「はいどうぞ」と手渡しできるものではありません。在学中だけハッピーならよい訳でもありません。その後こそ重要です。従って私たち教職員の使命とは、学生のみなさんが職業人・社会人として豊かな人生を送るために、その土台作りのお手伝いをするという事になります。あくまでも主役は学生本人です。また社会に出てハッピーになる最低条件としては、大人として自立していなければなりません。その自立に欠かせないのが自律です。自律とは自分と闘うということです。ただ欲望や本能のままに行動するなら動物と同じです。すなわち、「自律 → 自立 → ハッピー」という順番です。私達もみなさんのお手伝いに全力を尽くしますが、自立した大人になる独力を忘れないでください。

勉強は教わるものではない

初年度のみ先生方は手取り足取り親切に教えてくれます。高校までに自分なりの勉強方法が身に付いていない人もいます。しかし2年目からは最後まで教えません。「まずは自分で考えてみなさい」と指導します。なぜでしょうか。将来みなさんが就職する会社に、そんな面倒見のよい上司や先輩がいるのでしょうか。みな仕事を抱えています。社会に出れば自分で勉強するのが当たり前です。質問・相談もできますが、自分で調べて考えるのが大原則です。その姿勢を在学中に身に付けてください。2年生になって先生の態度が変わるのはそのためです。急に厳しくなったと勘違いする学生がいますが、みなさんの真の成長を望んでいるのだということに気付いて欲しいです。

またスピード制限もしていません。もし授業の内容を既に理解していると感じる人は申し出てください。指導教員がそう判断すれば別メニューを設定します。クラス全体に歩調を合わせる必要はありません。どんどん前に進んでください！

人間教育の重視

人と接するのが苦手だからコンピュータの仕事に就きたいという学生がいます。大きな勘違いです。コンピュータの向こうには生身の人間がいます。どんなビジネスでも主役は人です。技術や資格ではなく人が仕事をするのです。そして人は一人では生きて行けない生き物です。仕事にせよ日常生活にせよ、常に他者との係わりの中で生きています。本校は単なる就職予備校ではないのです。人間教育を技術教育以上に重視しています。特に次の2つを心がけて欲しいです。

元気に明るく挨拶（あいさつ）

明るい人はみんなに好かれます。明るさの第一歩は、自分から元気に挨拶することです。そのような新入社員は職場でも愛されます。学校の先生方や来校されるお客様に練習台になっていただき、どんどん自分から挨拶しましょう。

3つの守り

本校がとても大切にしている3つの守りとは、「時間を守る、約束を守る、ルールを守る」です。単純ですが、当たり前のことを当たり前にやるのは実は大変なことです。自律できない人は自分と闘えません。つまり自立もできません。

「ルールを守る」に関しては考えて欲しいことがあります。学校生活だけでなく今後の生き方にも係わることです。ルールや法律を守るのは、叱られない罰せられないためでしょうか。世の中を見渡すと、法に触れなければいい、見つからなければいい、と考える者もいます。真の大人になり損ねた、自己中心のニセ大人です。みなさんには、「そんなことをしたら人として、大人として恥ずかしい」と自分を律して行動できる、良識ある職業人・社会人になって欲しいと願っています。以下校内のルールやマナーについて、少し補足しておきます。

通学

- (1) バイク・自動車通学全面禁止。
- (2) 自転車は学生課に登録し所定の駐輪場所を利用。

エレベーター

- (1) 学生はドアの注意書きに従うこと。下りは全面禁止。
- (2) 授業開始前および終了後の5分間は使用禁止。(教員優先)
- (3) 3号館は全面使用禁止。

禁煙

教職員、学生、成年、未成年者にかかわらず校内及び天沼公園・学校周辺は全面禁煙。

※船橋駅前から本校までの路上喫煙は条例により禁止され罰金の対象です

交通ルール

3号館前的大通りは横断絶対禁止。過去に死亡事故あり。横断歩道を使うこと。

重大なルール違反やマナー違反をした場合は、校長面接の上、停学や退学処分になることもありますので、学生の本分を守り勉学や学校生活に励んでください。なお本校では、学生が直接メールを校長宛に出すことができます。何か要望や相談があれば、いつでもメールしてください。 takatorii@chiba-fjb.ac.jp

以上

評価について

- (1) 評価とは成績証明書にA～Dで表現され記載される、その科目の最終的な成績のことを指す。
- (2) 評価は、合計点を用いて算出する。合計点とは、定期試験の素点に授業態度や出席状況、課題提出等の平常点を合計して算出したものである。

評価は以下の基準を用いる。(点または%)

A	80以上
B	50～79
C	40～49
D	39以下

- (3) 評価Dの者は、単位未修得者として処理される。
- (4) 評価Dの者には所定の手続きの後、再試験を実施する。ただし、再試験は特別の場合を除き、レポートに代替する。再試験に合格した場合その科目の評価はCとする。(特別な努力が認められたものは、B評価になることもある。)

出欠席ルール

- (1) 遅刻3回で欠課1回、欠課6回(1年生はSHR分の遅刻1回を含む)で1日の欠席とみなし、次の条件で換算する
 - ・SHRの遅刻及び欠席で「遅刻1」※SHRは1年生のみ
 - ・授業開始15分までの入室で「遅刻1」
 - ・授業開始15～45分までの入室で「欠課1」
 - ・授業開始45～60分までの入室で「欠課1+遅刻1」※90分授業の前半45分の欠課1、後半15分までの遅刻1という考え方でカウントする
 - ・授業開始60分以降の入室で「欠課2」
- (2) 年間55日の欠席で進級停止、退学勧告。
- (3) 交通機関の乱れによる遅刻の場合は「遅延証明をもらう」。ただしバスは適用外。

レベル	欠席日数	学校側からのアクション	備考
1	無断欠席	担任が自宅へ電話する	
2	累積10日欠席	自宅へ警告書を郵送する	警告書の郵送は累積10日になった時点で行う。
3	累積25日欠席	校長面接を行う	警告書の郵送は累積25日になった時点で行う。
4	累積40日欠席	校長面接において「退学警告」を行う	保護者同伴で行う。
5	累積50日欠席	校長面接において「最終警告」を行う	同上
6	累積55日欠席	①自宅へ退学勧告通知書を郵送する ②掲示板に名前を張り出す	退学を勧告する。

※「退学勧告」とは・・・1ヶ月以内に退学届けを提出すれば「自主退学」扱いとなります。以後は「強制退学処分」とします。

FJBネットID登録とメールアドレス

1. ユーザID登録について

本校では、学生1人ひとりにユーザIDを発行しております。このIDでログインすると、学校内のネットワーク環境が利用できます。課題の保存、教材の受け渡し、メールでのコミュニケーションなどに活用して下さい。

2. メールアドレスについて

(1) 科によってメールアドレスが設定されています。

詳細は担任から説明があります。

(2) 「FJBインターネット&イントラネット」画面の「電子メール」「先生へのメール」をクリックして電子メールを活用して下さい。

(3) Webメールでの各個人に与えられている容量は50MBまでです。整理せずに企業からの大切なメールを受理できないケースがありました。不必要なメールはこまめに消去してください。

3. 緊急連絡網について

クラスの諸連絡、台風や大雪の休校連絡等で使用します。各自、常に最新の連絡先を更新するようにしてください。登録されたアドレスに連絡がつかない場合、自己責任となります。また、メール連絡の環境に無い場合は担任へ申し出てください。

実習室・インターネット使用上のルール・マナー

1. 実習室の放課後開放について

放課後、午後6時まで実習室を開放します。開放時間中に清掃（清掃時間を入り口に掲示）が入ります。その際は一度退出をお願いします。気持ちよく使えるよう、ご協力ください。

2. 実習室に、飲食物は持ち込んではいけません

パソコンは精密な電子機械です。水、粘着質の糖分、細かなゴミ、小さな金属物などを嫌います。実習室では、飲食行為も持ち込みも、厳禁です。

3. 本校のパソコンに、ゲーム（その他ソフト）をインストールしてはいけません

雑誌の付録のCD-ROMを持ち込んだり、インターネットでダウンロードしたりして、ゲームなどのソフトを本校のパソコンにインストールしてはいけません。

4. USBなどの記憶媒体は必ずウイルスチェックをするようにして下さい

記憶媒体を本校で使用する場合は、監督の先生に申し出てウイルスチェックをしてもらって下さい。その後、許可します。

5. 実習ファイルを保存するための領域をIドライブに用意してあります

必要なファイルのみ保存し、常に整理を心がけてください。ゲームファイル、過度な容量のファイルの保存を禁止します。（卒業研究等、必要な場合を除く）

6. インターネットを利用して、画像、音楽などを不正使用してはいけません

画像・音楽データなどはすべて、著作権があります。さらに、人物の写真には肖像権、アイドルの写真にはパブリシティ権があります。個人的な利用の範囲を超えて、使用してはいけません。HPやブログに貼り付けることはこれらの権利の侵害で、犯罪行為です。

7. インターネットに、非常識な書き込みをしてはいけません

インターネットの世界は、限られた若者のギャグやチャレの場ではありません。善意ある人達の、世界的に開かれた場です。匿名性を利用した破廉恥な書き込みは、卑怯者の行為です。一見匿名ですが、アクセス記録は残りますから、必ず追跡されます。

以上の約束が守れない場合は、指導の対象となります。

また、悪質な場合は、停学・退学を含めた処置を検討します。

学校法人三橋学園 船橋情報ビジネス専門学校
個人情報保護に関する基本方針（プライバシーポリシー）

船橋情報ビジネス専門学校

船橋情報ビジネス専門学校は、教育機関としての社会的責任を果たすために、以下の個人情報保護方針(プライバシーポリシー)を定め、教職員およびその他の関係者に周知徹底し、これを実行します。

1. 個人情報の取り扱いについては、教育上または業務上必要な範囲内において利用目的をできるだけ特定した上で、権限を与えられた者のみに許可します。
2. 個人情報に対する不正アクセス、紛失、破壊、改ざんおよび漏えい等を防止するために、適切な安全対策を講じます。
3. 取得した個人情報は、以下の目的に利用します。
 - (1) 本校の授業、検定試験、行事等の通知・連絡・管理を行うため
 - (2) 就職指導および就職活動支援を行うため
 - (3) 入学相談および募集活動を行うため
 - (4) 入学選考試験業務を行うため
 - (5) 各種証明書等の発行業務を行うため
 - (6) 上記のほか、教育上必要と判断される業務や活動を行うため
4. 本校は以下のような場合において、必要とされる範囲内で個人情報を関係者または第三者に提供もしくは公開することがあります。
 - (1) 在学生の保護者に対し、本人の学業成績、出欠席状況、資格取得状況等の提供
 - (2) 在学生もしくは卒業生の出身校に対し、本人の出欠席状況、資格取得状況、就職状況等の提供
 - (3) 学内での定期試験合格者、資格取得者、就職内定者情報等の公開
 - (4) 就職指導室における、在学生もしくは卒業生の就職先、就職活動記録等の公開
 - (5) 本校への入学希望者に対する、在学生もしくは卒業生の就職または就職内定先情報および、学校案内や本校ホームページに記載されている情報等の提供
 - (6) 上記のほか、本校の教育上もしくは業務上必要と判断される場合
5. 上記以外の利用目的で個人情報を収集する場合は、別途本人および保護者に通知します。
6. 以上のように、本校による関係者および第三者への個人情報の提供は、教育上もしくは業務上必要であると判断した上で行っておりますが、希望しない場合は所定の手続による請求をすることで停止できます。

個人情報の開示、訂正、利用停止の請求および取り扱いに対する問い合わせは下記までお願いします。

校長 鳥居 高之
047-425-1051
takatorii@chiba-fjb.ac.jp

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経済産業省基本情報技術者試験,オラクルマスター,CCENTの合格 ・情報処理技術者の基礎となる幅広い知識の習得 (システム設計技法,プログラミング技術,データベース利用技術,ネットワーク,情報セキュリティ) ・システム構築に必要な論理的思考能力の向上
目標資格	<ul style="list-style-type: none"> ・基本情報、応用情報技術者試験 ・オラクルマスター(Bronze) ・CCENT、CCNA ・オラクル認定Javaプログラマ(Bronze)
1年次進級条件(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・基本情報午前免除 or 情報検定(J検) 活用2級 ・Javaプログラミング課題 ・MOS Excel ・SEA/J(CSBM)
2年次進級条件(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・オラクルマスター ブロンズ SQL ・CCENT
卒業条件(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・基本情報午前免除 or 情報検定(J検) 活用2級 ・サーバー/Javaプログラミング能力認定試験3級 ・ビジネス能力検定(B検) ジョブパス3級 ・MOS Excel ・漢字検定3級

<方針>

- ①企業に役立つ高度な人材及び良き社会人としての成長を目指す
- ②プログラミング,設計技法に加え、ネットワーク,セキュリティの知識を習得し、多様な資格取得にチャレンジする
- ③オビジェクト指向の基礎に留まらず、Webアプリ/携帯アプリ開発技術を習得する

- 1年次：資格取得(座学中心)
 - ・基本情報技術者試験合格を第一目標に、IT基礎知識を身につける
 - ・アルゴリズムの授業に力を入れ、プログラミング力を高める
- 2年次：演習+資格取得
 - ・前期にCCENT、後期にオラクルマスターブロンズ(SQL)の取得を目指す
 - ・上位資格のCCNA・応用情報技術者試験の取得講座を実施する
 - ・グループでWebシステム開発に取り組み、システムエンジニアプログラマ、サーバー関連の意識を高め、就職活動に備える
- 3年次：企業人1年生
 - ・自ら調べ考える習慣、問題発見解決能力を身につける
 - ・知識に加え、人と共に働く力や自ら考え行動する力の向上を図る
 - ・プレゼンテーション能力、目的に応じたドキュメント作成の基礎を習得する

2学年

3学年

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
1 経済産業省 基本情報技術者試験	☆							☆					
2 経済産業省 応用情報技術者試験	☆							☆					
3 CCENT、CCNA			GET!										
4 オラクルマスター(Bronze)													
5 SEA/J(CSBM)													
6 UMLモデリング 技能認定試験L1													
7 J検情報活用2級,1級													
8 J検システム試験													
9 オラクル認定Java(Bronze) サーバー/Java3級				☆								☆	
10 漢検3級				☆								☆	
11 ジョブパス3級(旧:B検)				☆								☆	
12 MOS Excel													

ITエンジニア科	3年
----------	----

【前期】

科目	ARアプリ開発演習	分類	専門科目
担当	山口 弘展		
テキスト (出版社)			
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	0%	70%	0%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要
UnityとARライブラリ、自作した3Dモデルを使って簡単なARコンテンツ制作を行う(※使用言語:C#)
2. 授業の目標(検定取得など)
Unityを使った3Dゲーム制作、ARコンテンツ制作の技術を習得する
3dsMaxを使った簡単なモデリング技術を習得する
3. 注意点・要望
プログラミングが苦手であっても、ノンコーディングのコンテンツ制作も含まれているので、意欲的に取り組むこと
開発に使用するアプリケーション操作が難しいと感じる可能性があるため、休まずに受講すること
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	Unity基礎	Unityの基本操作
2	UnityとARライブラリの連携	UnityとARライブラリを使った簡易ARコンテンツ制作
3	3DCG制作(基礎)	3dsMaxを使った簡単なモデリング
4	3dsMaxとUnityの連携	自作した3Dモデルを使ってUnityで簡易ARコンテンツ制作
5	3DCG制作(応用)①	FFDを使ったモデリング
6	3DCG制作(応用)②	FFDを使ったモデリング、およびUnityで簡易ARコンテンツ制作
7	3Dゲーム制作①	Unityを使った3Dゲーム制作
8	3Dゲーム制作②	Unityを使った3Dゲーム制作
9	3Dゲーム制作③	Unityを使った3Dゲーム制作
10	ARゲーム制作①	UnityとARライブラリを使った3Dゲーム制作
11	ARゲーム制作②	UnityとARライブラリを使った3Dゲーム制作
12	ARゲーム制作③	UnityとARライブラリを使った3Dゲーム制作
13	オリジナルARコンテンツ制作①	Unity・ARライブラリ・3dsMaxを使ったオリジナルのARコンテンツ制作
14	オリジナルARコンテンツ制作②	Unity・ARライブラリ・3dsMaxを使ったオリジナルのARコンテンツ制作
15	オリジナルARコンテンツ制作③	Unity・ARライブラリ・3dsMaxを使ったオリジナルのARコンテンツ制作

備考	
----	--

ITエンジニア科	3年
----------	----

【後期】

科目	卒業研究	分類	専門科目
担当	山口 弘展		
テキスト (出版社)			
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	8
	0%	0%	70%	0%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要		
グループごとに決定したテーマをもとに、企画・設計・実装・テストの開発工程を実践していく		
2. 授業の目標(検定取得など)		
<ul style="list-style-type: none"> 開発に関する基礎的な知識と技術の習得、およびその実践 ビジネスモデルを意識した企画力の習得 納期を意識した作業計画とその実践 グループへの寄与を考えた行動の実践 		
3. 注意点・要望		
3年間の集大成となることを意識した開発になるように取り組むこと 知識や技術だけでなく、組織で動いていくために必要なスキルが何かを考えながら取り組むこと		
4. 関連科目		
ARアプリ開発演習、Webアプリ開発演習Ⅰ、プロジェクトマネジメントⅠ Webアプリ開発演習Ⅱ、プロジェクトマネジメントⅡ、プレゼンテーション		
週	テーマ	内容
1	企画(1)	授業説明、企画内容(ビジネスモデルを含む)の検討
2	企画(2)	企画内容の精査、見直し
3	設計	開発に必要な仕様書の作成、および開発スケジュールの策定
4	企画プレゼンテーション	グループ単位でプレゼンテーション(制作内容、開発スケジュールなど)
5	開発(1)	スケジュールに沿った開発を行う
6	開発(2)	スケジュールに沿った開発を行う
7	開発(3)	スケジュールに沿った開発を行う
8	開発(4)	スケジュールに沿った開発を行う
9	中間発表	グループ単位でプレゼンテーション(進捗状況の確認、および今後の計画など)
10	開発(5)	スケジュールに沿った開発を行う
11	開発(6)	スケジュールに沿った開発を行う
12	開発(7)	スケジュールに沿った開発を行う
13	開発(8)	スケジュールに沿った開発を行う
14	開発(9)	スケジュールに沿った開発を行う
15	開発(10)	スケジュールに沿った開発を行う
16	テスト	テスト作業
17	後期試験期間	
備考	企業の現役の役職員の方に成果発表を見てもらい実業の見地から評価をしてもらい、より実践的な学びの機会とする。	

ITエンジニア科	3年
----------	----

【前期】

科目	デザインパターン	分類	専門科目
担当	小原 和明		
テキスト (出版社)	スッキリわかるJava入門(実践編) インプレス		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	60%	20%	0%	20%	100%		

1. 授業の概要
デザインパターンとは、エンジニアが経験によって暗黙のうちに身に着ける「問題を決するためのノウハウ」を体系的にまとめたものである。本授業では、それらの先人の知恵を紹介しつつ、プログラム開発に必要な周辺知識を学ぶ。
2. 授業の目標(検定取得など)
「必ずしも最善とは限らないが、多くの人が認める一般的な解決策」を学び、自分たちでアレンジすることができるようになることが目標である。
3. 注意点・要望
GoFなど著名なデザインパターンは、授業時間内ではごく一部しか扱うことができないが、学習した内容だけでなく、自分で考えた調べたアイデアを試行錯誤して身につけてほしい。
4. 関連科目
卒業研究、Webアプリ開発演習Ⅰ、Webアプリ開発演習Ⅱ

週	テーマ	内容
1	文字列の操作	文字列操作メソッドの復習
2	文字列の操作	StringBuilderクラス、Builderパターン
3	コレクション	ArrayListの復習、HashMapの使い方
4	コレクション	Iteratorパターン
5	インスタンスの基本操作	継承とインタフェース
6	インスタンスの基本操作	インスタンスの5大操作
7	課題制作	ここまで学んだことを生かして課題作成
8	課題制作	ここまで学んだことを生かして課題作成
9	課題制作	ここまで学んだことを生かして課題作成
10	課題制作	ここまで学んだことを生かして課題作成
11	さまざまな種類のクラス	型安全とジェネリクス
12	WEBシステムの応用	代表的なCMSの紹介と実装
13	WEBシステムの応用	機械学習、画像認識等のWEB APIの利用方法
14	ファイル操作	テキストファイルやバイナリファイルの読み書き
15	前期試験期間	

備考	システム開発経験のある教員が、「問題を解決するためのノウハウ」について講義する
----	---

ITエンジニア科	3年
----------	----

【前期】

科目	マーケティング概論	分類	教養科目
担当	田所 博		
テキスト (出版社)			
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要		
マーケティング手法(市場分析、競合分析、自社分析、環境分析、販売戦略、プロモーション戦略)の学習		
2. 授業の目標(検定取得など)		
ベネフィットの重要性を理解する お客様が何を欲しい・したいと思っているかを理解し、それに見合った商品開発やプロモーション活動を行うスキルを身に付ける		
3. 注意点・要望		
各種分析の為に必須となる調査は徹底して行うこと アイデアを制限せずに可能性を狭めないこと		
4. 関連科目		
卒業研究、プレゼンテーション		
週	テーマ	内容
1	マーケティング概要	マーケティングの重要性、ベネフィット、各種分析手法
2	SWOT分析、PPM	自社の強み・弱み・機会・脅威を調査し、分析を行う 市場成長率・市場相対占有率に着目し、分析を行う
3	市場細分化、 リレーションシップマーケティング	市場細分化(各種変数)を行う 顧客管理手法を活用し、分析を行う
4	キャッチコピー、課題演習	キャッチコピーの重要性、課題演習
5	実践演習(1)	消費財についてのマーケティング戦略立案を行う
6	実践演習(2)	消費財についてのマーケティング戦略立案を行う
7	実践演習(3)	消費財についてのマーケティング戦略立案を行う
8	実践演習(4)	消費財についてのマーケティング戦略立案を行う
9	実践演習(5)	サービス財についてのマーケティング戦略立案を行う
10	実践演習(6)	サービス財についてのマーケティング戦略立案を行う
11	実践演習(7)	サービス財についてのマーケティング戦略立案を行う
12	実践演習(8)	サービス財についてのマーケティング戦略立案を行う
13	実践演習(9)	各グループで商品・サービスを決定し、マーケティング戦略立案を行う
14	実践演習(10)	各グループで商品・サービスを決定し、マーケティング戦略立案を行う
15	前期試験期間	

備考	
----	--

ITエンジニア科	3年
----------	----

【前期】

科目	Webアプリ開発演習 I	分類	専門科目
担当	小原 和明		
テキスト (出版社)	確かな力が身につくPHP「超」入門 (SB Creative) WordPress標準デザイン講座 (翔泳社)		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	0%	60%	20%	0%	20%	100%		

1. 授業の概要
WEBシステム開発に必要な言語である「PHP」の仕組みを理解する PHPを用いたWEBシステムとデータベースの連携方法を学ぶ
2. 授業の目標(検定取得など)
自力で「ECサイト」「ブログシステム」「画像掲示板」などの実用的なシステム開発ができる力を身につける
3. 注意点・要望
教科書を前提にして進むので、休まずに教科書を持って授業に臨むこと 自分で考えてシステム構築ができるようになるため、エラーが出て焦らずに修正して完成させること
4. 関連科目
卒業研究、Webアプリ開発演習Ⅱ

週	テーマ	内容
1	イントロダクション、開発環境の整備	授業の目標および進み方の説明、開発環境の構築
2	PHPの基本文法1	画面表示、文字列の結合、変数、四則演算、キャスト、条件分岐
3	PHPの基本文法1	基本文法1を使った課題演習
4	PHPの基本文法2	配列、連想配列、foreach文、関数、フォーム(GET/POST)、セッション、クッキー
5	PHPの基本文法2	基本文法2を使った課題演習
6	WEBシステム開発1	占いアプリの開発を通してPHPのコーディングやデバッグ方法に慣れる
7	WEBシステム開発1	占いアプリの開発を通してPHPのコーディングやデバッグ方法に慣れる
8	データベース連携	PHPを用いたデータベースの利用方法を理解する
9	データベース連携	PHPを用いたデータベースの利用方法を理解する
10	データベース連携	PHPを用いたデータベースの利用方法を理解する
11	WEBシステム開発2	データベースを用いたWEBシステム(ECサイト、掲示板など)を開発する
12	WEBシステム開発2	データベースを用いたWEBシステム(ECサイト、掲示板など)を開発する
13	WEBシステム開発2	データベースを用いたWEBシステム(ECサイト、掲示板など)を開発する
14	WEBシステムの応用	代表的なCMSの紹介 (WordPress, ECCUBE)
15	前期試験期間	

備考	システム開発経験のある教員が、WEBシステムの企画から実装までの講義を行う
----	---------------------------------------

科目	Webアプリ開発演習Ⅱ	分類	専門科目
担当	小原 和明		
テキスト (出版社)	WordPress標準デザイン講座(翔泳社) 確かな力が身につくPHP「超」入門(SB Creative)		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	60%	20%	0%	20%	100%		

1. 授業の概要

ショッピングサイトの構築およびWordPressのカスタマイズを通して、Webアプリケーション制作技術を学ぶ

2. 授業の目標(検定取得など)

自力でショッピングサイトを構築したり、CMSをカスタマイズできる力を身につける

3. 注意点・要望

技術力をつけるため、まずは「自分で考えてみる」「エラーが出ても焦らずに修正する」ことが重要です。
教科書に沿って進めるので、とにかく休まずに教科書をもって授業に臨むこと

4. 関連科目

Webアプリ作成演習Ⅰ、卒業研究

週	テーマ	内容
1	イントロダクション、開発環境の整備	授業の目標および進み方の説明、開発環境の構築
2	サイト作成の準備	テスト環境の構築、初期設定を行う
3	WordPressのためのPHP基礎知識	PHPの記法や用語、エラーチェック方法などを復習する
4	WordPressサイトを作る	サイトの設計、テーマ選択、テンプレート、投稿データの加工
5	WordPressサイトを作る	サイトの設計、テーマ選択、テンプレート、投稿データの加工
6	WordPressサイトを作る	サイトの設計、テーマ選択、テンプレート、投稿データの加工
7	テンプレートファイルを追加する	共通部分をまとめる、各種ページ、固定ページ、コメントのテンプレート
8	テンプレートファイルを追加する	共通部分をまとめる、各種ページ、固定ページ、コメントのテンプレート
9	テンプレートファイルを追加する	共通部分をまとめる、各種ページ、固定ページ、コメントのテンプレート
10	テーマの機能を拡張する	カスタムメニュー、カスタムヘッダー、アイキャッチ画像
11	テーマの機能を拡張する	カスタムメニュー、カスタムヘッダー、アイキャッチ画像
12	テーマの機能を拡張する	カスタムメニュー、カスタムヘッダー、アイキャッチ画像
13	独自サイトの構築	いままで学んだ内容を生かした、オリジナルサイト、オリジナルアプリの作成
14	独自サイトの構築	いままで学んだ内容を生かした、オリジナルサイト、オリジナルアプリの作成
15	独自サイトの構築	いままで学んだ内容を生かした、オリジナルサイト、オリジナルアプリの作成
16	独自サイトの構築	いままで学んだ内容を生かした、オリジナルサイト、オリジナルアプリの作成
17	後期試験期間	

備考

システム開発経験のある教員が、WEBシステムの企画から実装までの講義を行う

科目	プレゼンテーション	分類	教養科目
担当	田所 博		
テキスト (出版社)			
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

各回でテーマを設定し、グループでPowerPointを用いたスライドの作成、配布資料の作成及びプレゼンテーションを行う

2. 授業の目標(検定取得など)

相手の心に訴えるプレゼンテーション手法を身に付ける
マーケティングの重要性、手法を理解する

3. 注意点・要望

担当教員と報告・連絡・相談を密にし、効率良く最善の作業進捗を取ること
社会人として相応しいマナーや所作で常に行動し、納期厳守を徹底すること

4. 関連科目

卒業研究

週	テーマ	内容
1	現状とコンセプト、 システムの特長と画面(1)	スライド作成、配布資料作成、原稿作成
2	現状とコンセプト、 システムの特長と画面(2)	スライド作成、配布資料作成、原稿作成
3	現状とコンセプト、 システムの特長と画面(3)	スライド校正、配布資料校正、原稿校正、リハーサル
4	現状とコンセプト、 システムの特長と画面(4)	スライド校正、配布資料校正、原稿校正、リハーサル
5	現状とコンセプト、 システムの特長と画面(5)	スライド校正、配布資料校正、原稿校正、リハーサル
6	現状とコンセプト、 システムの特長と画面(6)	プレゼンテーション、振返り、議事録作成
7	デモンストレーション(1)	スライド作成、配布資料作成、原稿作成
8	デモンストレーション(2)	スライド作成、配布資料作成、原稿作成
9	デモンストレーション(3)	スライド校正、配布資料校正、原稿校正、リハーサル
10	デモンストレーション(4)	スライド校正、配布資料校正、原稿校正、リハーサル
11	デモンストレーション(5)	スライド校正、配布資料校正、原稿校正、リハーサル
12	デモンストレーション(6)	プレゼンテーション、振返り、議事録作成
13	クラス予選準備(1)	スライド作成、配布資料作成、原稿作成
14	クラス予選準備(2)	スライド作成、配布資料作成、原稿作成
15	クラス予選準備(3)	スライド校正、配布資料校正、原稿校正、リハーサル
16	クラス予選準備(4)	スライド校正、配布資料校正、原稿校正、リハーサル
17	クラス予選	プレゼンテーション、振返り、議事録作成 ※学科代表班決定

備考

ITエンジニア科	3年
----------	----

【前期】

科目	ネットワーク設計	分類	専門科目
担当	村上 建夫		
テキスト (出版社)	プリント配布		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
ネットワークシステムの基礎を学びながら、ネットワークシステムの検討、ネットワーク設計の技術を修得する。
2. 授業の目標(検定取得など)
ネットワーク設計に必要なトラフィック計算、ネットワークの性能分析、ネットワーク機器の選択、ケーブルの選択、アドレス設計、ネットワーク設計を演習を交えて、ネットワークシステムの基礎知識の習得と、その応用力を身につける。
3. 注意点・要望
演習は4～5人程度のグループ単位で行う。そのため、指導力、協調性などコミュニケーション能力が必要となる。それを心掛け、授業に臨むこと。
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	LAN設計の要領	LAN設計の要領
2	トラフィック量	トラフィック量の見積もり
3	演習①	小規模ネットワークの設計
4	ルーティングプロトコル	ルーティングの概要、ルーティングの種類、ルーティングプロトコルの種類
5	構成機器	LAN中継器の概要
6	ケーブル	媒体の概要
7	アドレス設計	アドレス設計の要領
8	演習②	フロア間ネットワークの設計
9	演習③	中規模LANの設計
10	演習④	建屋間LANの設計
11	無線LANの検討	無線LANの概要、無線LAN設計の要領
12	演習⑤	無線LANを含む中規模ネットワークの設計
13	IP電話の検討	IP電話の概要、IP電話の設計
14	演習⑥	IP電話を含めたネットワークの設計
15	定期試験	

備考	
----	--

ITエンジニア科	3年
----------	----

【前期】

科目	プロジェクトマネジメント I	分類	専門科目
担当	須藤 健一郎		
テキスト (出版社)	プリント教材を配布		
参考資料	付箋		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	20%	40%	0%	0%	40%	100%		

1. 授業の概要		
「プロジェクトマネジメント」を学習することで、仕事の管理を行い、後期の卒業研究をプロジェクトとして捉え、実践する		
2. 授業の目標(検定取得など)		
付箋や紙資料を用いて、試行錯誤を繰り返し、全体像をつかむことを第一目標とする。そこから、プロジェクト管理ツールの活用を行い、実践型のプロジェクト管理へと移行していく。		
3. 注意点・要望		
公欠により欠席した分は、次の授業までにしっかりと情報共有を行い、学習しておくこと。		
4. 関連科目		
卒業研究		
週	テーマ	内容
1	ガイダンス	プロジェクトマネジメントについて
2	ネットワーク図づくり方編	カップラーメンの調理手順
3	ネットワーク図実践編	カップ焼きそば・袋麺の調理手順
4	見積と実績	作業割り出し、作業時間割り出し、見積と実績
5	ネットワーク図応用編	往路分析・復路分析
6	ガントチャート	ネットワーク図からガントチャートの作成を実施する
7	負荷分析・予算作成・リスク分析1	ガントチャートが完成した為、各種分析を実施する
8	負荷分析・予算作成・リスク分析2	同上
9	プロジェクト管理ツールの利用1	ツールの使い方
10	プロジェクト管理ツールの利用2	ツールの実践
11	プロジェクト管理ツールの利用3	ツールの応用
12	プロジェクト管理演習	ひな形を用いてプロジェクト管理を実習する
13	ツールと事例について	管理ツールの紹介と失敗プロジェクトの事例について
14	プロジェクト管理応用1	若幸祭や卒業研究に向け、プロジェクトマネジメント技術の実践を行う
15	プロジェクト管理応用2	同上

備考	
----	--

科目	プロジェクトマネジメントⅡ	分類	専門科目
担当	須藤 健一郎		
テキスト (出版社)	「プロジェクトマネジメントⅠ」の時のプリントと個人ドキュメント		
参考資料	プリント教材など		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	30%	40%	0%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要

前期で培ったプロジェクト管理技術を利用し、卒業研究を題材に、プロジェクトマネジメントの実践を行う。

2. 授業の目標(検定取得など)

各自がプロジェクトマネージャーとして、自身のプロジェクトを管理し、都度、チーム内でどう運用していくか話し合う。

3. 注意点・要望

役割分担など、実際のものに合わせて行います。卒業研究との連携が必要不可欠ですので、自身の役割を把握してください。なお、毎授業の終わりにチームごとに自身の調整した予定と実績を話し合う時間を設けます。

4. 関連科目

卒業研究、プロジェクトマネジメントⅠ

週	テーマ	内容
1	ガイダンス	実際の卒業研究を題材に、各自がプロジェクトマネージャーの目線を学習する
2	卒業研究のプロジェクト管理1	予定と実績の管理の他、予算設定や負荷分析を実施する
3	卒業研究のプロジェクト管理2	完成したガントチャートに基づき、実績管理を行うプロジェクト管理事例研究
4	卒業研究のプロジェクト管理3	完成したガントチャートに基づき、実績管理を行うプロジェクト管理事例研究
5	卒業研究のプロジェクト管理4	完成したガントチャートに基づき、実績管理を行うプロジェクト管理事例研究
6	卒業研究のプロジェクト管理5	完成したガントチャートに基づき、実績管理を行うプロジェクト管理事例研究
7	卒業研究のプロジェクト管理6	完成したガントチャートに基づき、実績管理を行うプロジェクト管理事例研究
8	卒業研究のプロジェクト管理7	完成したガントチャートに基づき、実績管理を行うプロジェクト管理事例研究
9	卒業研究のプロジェクト管理8	完成したガントチャートに基づき、実績管理を行うプロジェクト管理事例研究
10	卒業研究のプロジェクト管理9	完成したガントチャートに基づき、実績管理を行うプロジェクト管理事例研究
11	卒業研究のプロジェクト管理10	完成したガントチャートに基づき、実績管理を行うプロジェクト管理事例研究
12	卒業研究のプロジェクト管理11	完成したガントチャートに基づき、実績管理を行うプロジェクト管理事例研究
13	卒業研究のプロジェクト管理12	完成したガントチャートに基づき、実績管理を行うプロジェクト管理事例研究
14	卒業研究のプロジェクト管理13	完成したガントチャートに基づき、実績管理を行うプロジェクト管理事例研究
15	卒業研究のプロジェクト管理14	完成したガントチャートに基づき、実績管理を行うプロジェクト管理事例研究
16	卒業研究のプロジェクト管理15	完成したガントチャートに基づき、実績管理を行うプロジェクト管理事例研究
17	まとめ	プロジェクト管理に必要なもの

備考

ITエンジニア科	3年
----------	----

【前期】

科目	技術英語 I	分類	選択科目
担当	正木 義男		
テキスト (出版社)			
参考資料	授業向けWebアプリを使用して演習・テストを行う。発音・リスニング用にヘッドセット使用		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	0%	70%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要
授業用Webアプリを使用して英語の聴く・話す・読む・書くの能力をバランスよく伸ばす。毎回必ず、発音・語彙強化のテストを行う。
2. 授業の目標(検定取得など)
最低英検準2級程度の英語力を身につける
3. 注意点・要望
授業の理解度をもとに内容のレベル変更することもある。インターネット上のフリーな英語教材を積極的に活用した授業を行う
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	思い出してみよう！ 中学英語	授業ガイダンス(進め方、評価)・インターネット語彙強化サイト紹介
2	演習とテスト	発音／語彙／音読／文法／Weblioによる語彙強化
3	演習とテスト	発音／語彙／音読／文法／Weblioによる語彙強化
4	演習とテスト	発音／語彙／Topics／洋楽／Weblioによる語彙強化
5	演習とテスト	発音／語彙／音読／文法／Weblioによる語彙強化
6	演習とテスト	発音／語彙／音読／文法／Weblioによる語彙強化
7	演習とテスト	発音／語彙／Topics／洋楽／Weblioによる語彙強化
8	演習とテスト	発音／語彙／音読／文法／Weblioによる語彙強化
9	演習とテスト	発音／語彙／音読／文法／Weblioによる語彙強化
10	演習とテスト	発音／語彙／Topics／洋楽／Weblioによる語彙強化
11	演習とテスト	発音／語彙／音読／文法／Weblioによる語彙強化
12	演習とテスト	発音／語彙／音読／文法／Weblioによる語彙強化
13	演習とテスト	発音／語彙／Topics／洋楽／Weblioによる語彙強化
14	演習とテスト	発音／語彙／音読／文法／Weblioによる語彙強化
15	前期試験期間	

備考	海外での業務経験をもとに授業を行う
----	-------------------

ITエンジニア科	3年
----------	----

【後期】

科目	技術英語Ⅱ	分類	選択科目
担当	正木 義男		
テキスト (出版社)			
参考資料	授業向けWebアプリを使用して演習・テストを行う。発音・リスニング用にヘッドセット使用		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	0%	70%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要
授業用Webアプリを使用して英語の聴く・話す・読む・書くの能力をバランスよく伸ばす。毎回必ず、発音・語彙強化のテストを行う。
2. 授業の目標(検定取得など)
TOEIC470程度の語彙力を身につける
3. 注意点・要望
授業の理解度をもとに内容のレベル変更することもある。インターネット上のフリーな英語教材を積極的に活用した授業を行う
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	演習とテスト	発音／Topics／洋楽／Weblioによる語彙強化
2	演習とテスト	発音／音読／文法／Weblioによる語彙強化
3	演習とテスト	発音／音読／文法／Weblioによる語彙強化
4	演習とテスト	発音／Topics／洋楽／Weblioによる語彙強化
5	演習とテスト	発音／音読／文法／Weblioによる語彙強化
6	演習とテスト	発音／音読／文法／Weblioによる語彙強化
7	演習とテスト	発音／Topics／洋楽／Weblioによる語彙強化
8	演習とテスト	発音／技術文書読解(HTML5)／文法／Weblioによる語彙強化
9	演習とテスト	発音／技術文書読解(HTML5)／文法／Weblioによる語彙強化
10	演習とテスト	発音／Topics／洋楽／Weblioによる語彙強化
11	演習とテスト	発音／技術文書読解(CSS3)／文法／Weblioによる語彙強化
12	演習とテスト	発音／技術文書読解(CSS3)／文法／Weblioによる語彙強化
13	演習とテスト	発音／語彙／Topics／洋楽／Weblioによる語彙強化
14	演習とテスト	発音／技術文書読解(JavaScript)／文法／Weblioによる語彙強化
15	演習とテスト	発音／技術文書読解(JavaScript)／文法／Weblioによる語彙強化
16	演習とテスト	発音／語彙／Topics／洋楽／Weblioによる語彙強化
17	演習とテスト	発音／技術文書読解(JavaScript)／文法／Weblioによる語彙強化

備考	海外での業務経験をもとに授業を行う
----	-------------------

ITエンジニア科	3年
----------	----

【前期】

科目	LPIC対策 I	分類	選択科目
担当	石川 雄介		
テキスト (出版社)	Linux教科書 LPICレベル1 Version4.0対応		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	50%	0%	0%	0%	20%	30%	100%		

1. 授業の概要
Linuxの基本操作やシステム管理の基本を学び、Linuxを利用するために必要な知識と技術を修得する。
2. 授業の目標(検定取得など)
Linux技術者認定試験 LPICレベル1
3. 注意点・要望
授業の復習をしっかりと行って完璧な状態にして下さい。LPICレベル1を取得した学生は上位のレベルを目指す。
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	Linux技術者認定試験とは	Linux、LPICとは何か？ハードウェア設定の決定と構成
2	システムアーキテクチャ	システムのブート
3	システムアーキテクチャ	ランレベルの変更とシステムのシャットダウン
4	Linuxのインストールとパッケージ管理	ハードディスクのレイアウト設計
5	Linuxのインストールとパッケージ管理	ブートマネージャ
6	Linuxのインストールとパッケージ管理	共有ライブラリの管理
7	Linuxのインストールとパッケージ管理	Debianパッケージ管理の使用
8	Linuxのインストールとパッケージ管理	RPMS及びYUMパッケージ管理の使用
9	GNUとUnixのコマンド	コマンドラインでの操作1
10	GNUとUnixのコマンド	コマンドラインでの操作2
11	GNUとUnixのコマンド	フィルターを使つてのテキストストリーム処理
12	GNUとUnixのコマンド	基本的なファイル管理
13	GNUとUnixのコマンド	ストリーム、パイプ、リダイレクトの使用
14	前期の復習	前期の復習
15	前期試験期間	

備考	
----	--

科目	LPIC対策Ⅱ	分類	選択科目
担当	石川 雄介		
テキスト (出版社)	Linux教科書 LPICレベル1 Version4.0対応		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	50%	0%	0%	0%	20%	30%	100%		

- 1. 授業の概要**
Linuxの基本操作やシステム管理の基本を学び、Linuxを利用するために必要な知識と技術を修得する。
- 2. 授業の目標(検定取得など)**
Linux技術者認定試験 LPICレベル1
- 3. 注意点・要望**
授業の復習をしっかりと行って完璧な状態にして下さい。LPICレベル1を取得した学生は上位のレベルを目指す。
- 4. 関連科目**

週	テーマ	内容
1	GNUとUnixのコマンド	プロセスの生成、監視、終了
2	GNUとUnixのコマンド	プロセスの実行優先度の変更
3	GNUとUnixのコマンド	正規表現を使用してのテキストファイル検索
4	GNUとUnixのコマンド	viを使った基本的なファイル編集
5	デバイス、Linuxファイルシステム、FHS	パーティションとファイルシステムの作成
6	デバイス、Linuxファイルシステム、FHS	ファイルシステムの整合性の保持
7	デバイス、Linuxファイルシステム、FHS	ファイルシステムのマウントのコントロール
8	デバイス、Linuxファイルシステム、FHS	ディスククォータの管理
9	デバイス、Linuxファイルシステム、FHS	ファイルのパーミッションと所有者の管理
10	デバイス、Linuxファイルシステム、FHS	ハードリンクとシンボリックリンクの作成・変更
11	デバイス、Linuxファイルシステム、FHS	システムファイルの検索、適切なファイル配置
12	LPIC受験対策	LPIC教科演習、個別にフォローアップ
13	LPIC受験対策	LPIC教科演習、個別にフォローアップ
14	LPIC受験対策	LPIC教科演習、個別にフォローアップ
15	LPIC受験対策	LPIC教科演習、個別にフォローアップ
16	LPIC受験対策	LPIC教科演習、個別にフォローアップ
17	LPIC受験対策	LPIC教科演習、個別にフォローアップ

備考	
----	--

ITエンジニア科	3年
----------	----

【前期】

科目	新技術動向 I	分類	専門科目
担当	小林 信彦		
テキスト (出版社)			
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	20%	50%	0%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要
新旧問わず現在利用されているさまざまなIT関連技術とニューストップピックの紹介・解説を行う。1回完結での解説の他、3回程度での演習も合わせて行う。その時期ごとに特に話題になっているトピックに関する紹介・解説を随時行う。
2. 授業の目標(検定取得など)
幅広い知識の習得と情報収集スキルの向上をめざす
3. 注意点・要望
内容ごとに小レポート・課題を作成・提出する。まとめとして自由テーマレポートの作成も行う。
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容と進め方、レポートの提出法などについて
2	技術解説1	情報関連技術・ニューストップピックの紹介と解説1
3	技術解説2	情報関連技術・ニューストップピックの紹介と解説2
4	技術解説3	情報関連技術・ニューストップピックの紹介と解説3
5	技術解説4	情報関連技術・ニューストップピックの紹介と解説4
6	技術解説5	情報関連技術・ニューストップピックの紹介と解説5
7	技術解説6	情報関連技術・ニューストップピックの紹介と解説6
8	技術解説7	情報関連技術・ニューストップピックの紹介と解説7
9	技術解説8	情報関連技術・ニューストップピックの紹介と解説8
10	技術解説9	情報関連技術・ニューストップピックの紹介と解説9
11	技術解説10	情報関連技術・ニューストップピックの紹介と解説10
12	技術解説11	情報関連技術・ニューストップピックの紹介と解説11
13	まとめ課題作成1	まとめレポートの作成1
14	まとめ課題作成2	まとめレポートの作成2
15	前期試験期間	

備考	
----	--

ITエンジニア科	3年
----------	----

【後期】

科目	新技術動向Ⅱ	分類	専門科目
担当	小林 信彦		
テキスト (出版社)			
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	20%	50%	0%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要
新旧問わず現在利用されているさまざまなIT関連技術とニューストップピックの紹介・解説を行う。1回完結での解説の他、3回程度での演習も合わせて行う。その時期ごとに特に話題になっているトピックに関する紹介・解説を随時行う。
2. 授業の目標(検定取得など)
幅広い知識の習得と情報収集スキルの向上をめざす
3. 注意点・要望
内容ごとに小レポート・課題を作成・提出する。まとめとして自由テーマレポートの作成も行う。
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	技術解説1	情報関連技術・ニューストップピックの紹介と解説1
2	技術解説2	情報関連技術・ニューストップピックの紹介と解説2
3	技術解説3	情報関連技術・ニューストップピックの紹介と解説3
4	技術解説4	情報関連技術・ニューストップピックの紹介と解説4
5	技術解説5	情報関連技術・ニューストップピックの紹介と解説5
6	技術解説6	情報関連技術・ニューストップピックの紹介と解説6
7	技術解説7	情報関連技術・ニューストップピックの紹介と解説7
8	技術解説8	情報関連技術・ニューストップピックの紹介と解説8
9	技術解説9	情報関連技術・ニューストップピックの紹介と解説9
10	技術解説10	情報関連技術・ニューストップピックの紹介と解説10
11	技術解説11	情報関連技術・ニューストップピックの紹介と解説11
12	技術解説12	情報関連技術・ニューストップピックの紹介と解説12
13	技術解説13	情報関連技術・ニューストップピックの紹介と解説13
14	まとめ課題作成1	まとめレポートの作成1
15	まとめ課題作成2	まとめレポートの作成2
16	まとめ課題作成3	まとめレポートの作成3
17	後期試験期間	

備考	
----	--

ITエンジニア科	3年
----------	----

【前期】

科目	就職講座A応用	分類	教養科目
担当	遠藤 幹雄		
テキスト (出版社)	求められる人材になるための社会人基礎力講座(日経BP社)		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	80%	0%	0%	0%	0%	20%	100%		

1. 授業の概要
社会人として必要な12の基礎力について、ケーススタディとグループディスカッションを通して理解する。
2. 授業の目標(検定取得など)
12の社会人基礎力について自己評価し、これからどのようにして身に付けていくべきかを考える。
3. 注意点・要望
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	社会人基礎力1	人生設計とキャリアデザイン
2	社会人基礎力2	社会人になるということ、社会人基礎力とは
3	社会人基礎力3	前に踏み出す力1 主体性
4	社会人基礎力4	前に踏み出す力2 働きかけ力
5	社会人基礎力5	前に踏み出す力3 実行力
6	社会人基礎力6	考え抜く力1 課題発見力
7	社会人基礎力7	考え抜く力2 計画力
8	社会人基礎力8	考え抜く力3 創造力
9	社会人基礎力9	チームで働く力1 発信力
10	社会人基礎力10	チームで働く力2 傾聴力
11	社会人基礎力11	チームで働く力3 柔軟性
12	社会人基礎力12	チームで働く力4 状況把握力
13	社会人基礎力13	チームで働く力5 規律性
14	社会人基礎力14	チームで働く力6 ストレスコントロール力
15	社会人基礎力15	社会人基礎力強化に向けて

備考	36年の社会人経験と3年の就職指導経験のある教員が、その経験に基づいて社会人基礎力について講義を行い、またいかにして身に付け、強化していくかについて指導する。
----	---

科目	ビジネス会計	分類	教養科目
担当	花田 秀宣		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	40%	0%	30%	0%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要

財務諸表(決算書)が表すもの、企業の経営成績や財務状態を読み取るための基礎を身に付ける

2. 授業の目標(検定取得など)

企業の数字をつかみ、数字でものを考えることができるようにする

3. 注意点・要望

授業に欠席した際のフォローを自主的に行う(授業内容の確認とプリントの受け取りは、基本翌日に行う)

4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	企業と信用	企業の目的、ステークスホルダー、モノとお金の流れ、大企業とは？、決算書
2	損益計算書(1)	5つの利益、利益の分析
3	損益計算書(2)	問題演習: 損益計算書の分析
4	貸借対照表(1)	3つ部、上下左右のバランス
5	貸借対照表(2)	問題演習: 貸借対照表の分析
6	損益計算書と貸借対照表(1)	経営活動の流れ、資産の活用と儲け、自己資本の活用と儲け
7	損益計算書と貸借対照表(2)	問題演習: 収益性の分析
8	損益分岐点(1)	固定費と変動費、損益分岐点の計算方法
9	損益分岐点(2)	問題演習: 損益分岐点を下げるには
10	キャッシュフロー計算書(1)	3つのCF、現金の流れと倒産
11	キャッシュフロー計算書(2)	問題演習: キャッシュフロー計算書の分析
12	企業状態の分析(1)	公開されている決算書から、実在企業の分析をする
13	企業状態の分析(2)	公開されている決算書から、実在企業の分析をする
14	企業状態の分析(3)	公開されている決算書から、実在企業の分析をする
15	企業状態の分析(4)	各自の分析結果の発表
16	企業状態の分析(5)	各自の分析結果の発表
17	後期試験期間	効果測定

備考

金融系システムの開発業務に携わり、また日商簿記試験対策を行ってきた教員がその経験を活かし、社会人としての基礎知識を講義する。

ITエンジニア科	3年
----------	----

【前期】

科目	ネットワークとセキュリティ応用	分類	専門科目
担当	村上 建夫		
テキスト (出版社)	入社1年目からの「ネットワークインフラ」がわかる本 出版:株式会社 翔泳社 ISBN:978-4-7981-4609-6		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
ITエンジニアに必要なネットワークテクノロジーと、情報セキュリティテクノロジーの基礎を習得する。
2. 授業の目標(検定取得など)
ネットワークの媒体・機器・システムからプロトコルまで、ネットワークの基本的知識、情報セキュリティの基礎知識を習得する。
3. 注意点・要望
各項目の解説終了後に、確認問題を実施する。
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	ネットワーク概要	インターネット、イントラネット、仮想ネットワーク、電話網の概要
2	プロトコル	IPv4とIPv6
3	インターネットのプロトコル	ルーティングプロトコル、TCP/UDP、アドレスに関するプロトコル
4	イントラネットのプロトコル	LANのテクノロジー、無線LANのテクノロジー、WANのテクノロジー
5	インターネットアクセスとVPN	インターネットアクセスネットワークのテクノロジー、VPNのテクノロジー
6	音声通信サービス	IP電話のテクノロジー
7	デジタル伝送	情報通信システムとデジタル符号
8	有線伝送媒体	UTP、光ファイバー
9	無線伝送	電波、最新無線通信のテクノロジー
10	情報セキュリティ	情報セキュリティの概要
11	階層別の主な攻撃(低レイヤ)	盗聴、なりすまし
12	階層別の主な攻撃(中、高レイヤ)	DoS攻撃、マルウェア
13	不正アクセス	侵入行為の流れ、不正アクセスへの対策テクノロジー
14	PKI	PKIの概要とテクノロジー
15	定期試験	

備考	
----	--

ITエンジニア科	3年
----------	----

【後期】

科目	情報特論	分類	専門科目
担当	遠藤 幹雄		
テキスト (出版社)	特に定めません(適宜プリントを配布します)。		
参考資料	ライト、ついてますかー問題発見の人間学ー ドナルド C.ゴース(著)、ジェラルド M.ワインバーグ(著)		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	80%	0%	0%	0%	0%	20%	100%		

1. 授業の概要
社会に出て直面する種々の問題について、その本質と解決について考える。
2. 授業の目標(検定取得など)
授業を通して、実社会で活かせる気づきやヒントを可能な限り見つけることができる。
3. 注意点・要望
テーマ、実施週、内容は授業の実施状況に合わせて変更する。
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	問題とは何か(1/2)	問題を定義し、課題を明らかにして解決をはかる問題解決力とは何か ・ 問題解決型の思考について学ぶ
2	問題とは何か(2/2)	〃
3	考える技術について(1/2)	考える技術とは何か ・ 演繹法と帰納法の違いについて学ぶ
4	考える技術について(2/2)	〃
5	考える技術の演習(1/2)	演習
6	考える技術の演習(2/2)	〃
7	マーケティングの基本(1/2)	マーケティングとは何か ・ マーケティングの初歩について学ぶ
8	マーケティングの基本(2/2)	〃
9	お客様満足(1/2)	お客様満足とは何か ・ 企業が大切にしている「お客様満足」について学ぶ
10	お客様満足(2/2)	
11	ゲームの理論(1/2)	ゲームの理論とは何か ・ ゲームの理論を学んで、競争相手との優位性の保ち方について学ぶ
12	ゲームの理論(2/2)	〃
13	分析ツール(1/2)	色々な分析ツールの紹介 ・ 論理ツリー、SWOT、MECE、フェルミ推定等々について学ぶ
14	分析ツール(2/2)	〃
15	後期試験期間	
16		
17		

備考	36年の社会人経験を持つ講師が、良き社会人生活をスタートするために必要となるスキルについて指導する。
----	--

ITエンジニア科	3年
----------	----

【前期】

科目	企業人研究 I	分類	教養科目
担当	葛田 一雄		
テキスト (出版社)	毎時間、プリントを配布		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
2. 授業の目標(検定取得など)
3. 注意点・要望
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1		時事に応じた内容を取り上げていきます。
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

備考	
----	--

ITエンジニア科	3年
----------	----

【後期】

科目	企業人研究Ⅱ	分類	教養科目
担当	葛田 一雄		
テキスト (出版社)	毎時間、プリントを配布		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
2. 授業の目標(検定取得など)
3. 注意点・要望
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1		時事に応じた内容を取り上げていきます。
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		

備考	
----	--

科目	社会人基礎力演習 I	分類	教養科目
担当	山口 弘展		
テキスト (出版社)	社会人基礎力入門書 http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/syakajinkisoryokunyuumonfree.pdf		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	40%	40%	0%	0%	20%	100%		

1. 授業の概要

経済産業省が提唱する社会人基礎力を、様々な学校行事(特に学園祭)の運営により養う

2. 授業の目標(検定取得など)

リーダー・フォロワー、提案、許容、協調等の資質向上

3. 注意点・要望

「モメていない」=真剣ではない証拠、「失敗していない」=チャレンジしていない証拠
社会に出る前に真の協調性を学んでほしい

4. 関連科目

ビジネス関連科目全て

週	テーマ	内容
1	社会人基礎力とは	社会人基礎力入門書を読み、昨年度の反省、改善、今後の成長展望を立てる
2	能力の実践1	企画を立てる
3	能力の実践2	予算案を作成する
4	能力の実践3	企画・予算・収支を発表する
5	社会人基礎力評価1	12の能力要素を自己評価し、これからの活動に役立てる
6	能力の実践4	各セクションに分かれて活動
7	能力の実践5	各セクションに分かれて活動
8	能力の実践6	各セクションに分かれて活動
9	社会人基礎力評価2	12の能力要素を自己評価し、これからの活動に役立てる
10	能力の実践7	各セクションの発表
11	能力の実践8	各セクションに分かれて活動
12	能力の実践9	各セクションに分かれて活動
13	能力の実践10	各セクションに分かれて活動
14	社会人基礎力評価3	12の能力要素を自己評価し、これからの活動に役立てる
15	能力の実践11	各セクションの発表

備考

科目	社会人基礎力演習Ⅱ	分類	教養科目
担当	山口 弘展		
テキスト (出版社)	社会人基礎力入門書 http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/syakajinkisoryokunyuumonfree.pdf		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	40%	40%	0%	0%	20%	100%		

1. 授業の概要

前期の内容を踏まえ、経済産業省が提唱する社会人基礎力を、様々な学校行事(特に学園祭)の運営により養う

2. 授業の目標(検定取得など)

リーダー・フォロワー、提案、許容、協調、プレゼンテーション等の資質向上

3. 注意点・要望

「モメていない」=真剣ではない証拠、「失敗していない」=チャレンジしていない証拠
社会に出る前に真の協調性を学んでほしい

4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	能力の実践12	各セクションに分かれて活動
2	能力の実践13	各セクションに分かれて活動
3	能力の実践14	各セクションに分かれて活動
4	社会人基礎力評価4	12の能力要素を自己評価し、これからの活動に役立てる
5	能力の実践15	各セクションの発表
6	能力の実践16	各セクションに分かれて活動
7	能力の実践17	各セクションに分かれて活動
8	社会人基礎力評価5	12の能力要素を自己評価し、これからの活動に役立てる
9	振り返り1	失敗要因、次年度への改善
10	振り返り2	各セクション発表
11	チームワーク1	発信力をつけるには
12	チームワーク2	発信力をつけるには
13	チームワーク3	柔軟性をつけるには
14	チームワーク4	状況把握力をつけるには
15	チームワーク5	規律性をつけるには
16	チームワーク6	ストレスコントロールをつけるには
17	社会人基礎力まとめ	身についた能力と足りない能力

備考

